

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会

西部地域畜産経営技術推進指導協議会

685号

2026.6.10

富山県東部家畜保健衛生所

富山県西部家畜保健衛生所

世界牛乳の日 富山駅で牛乳祭.....	1	特定事業場に関する届出状況、把握していますか？.....	5
豚熱の防疫制度が変わります (選択的殺処分へ).....	2	燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口(農林水産省)のお知らせ.....	5
新飼養衛生ポータルサイトの操作講習会の開催について.....	2	防疫情報.....	6
梅雨時の飼養管理ポイント.....	3	令和8年度畜産経営技術推進指導協議会総会・家畜保健衛生対策会議を開催.....	6
夏前までにサシバエ対策をお願いします！.....	4	7月から死亡牛処理に係る手数料が変更になります.....	6
		お知らせ.....	6

世界牛乳の日 富山駅で牛乳祭



富山駅南北通路で開催された牛乳祭の様子

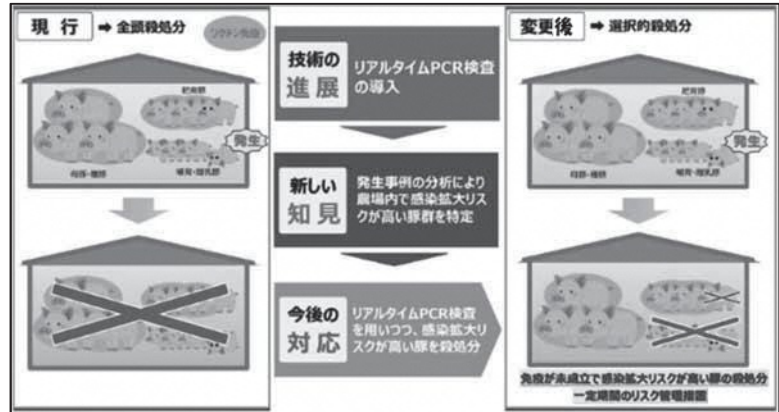
6月1日は世界牛乳の日です。この日、富山駅南北自由通路では牛乳祭が開催されました。これは、牛乳の日に合わせて、富山市と富山市乳業協会が地場産牛乳の美味しさをPRして酪農家を応援するイベントです。今年は平日の開催でしたが、県内外から多くの人々が訪れ、無料配布された牛乳を笑顔で受け取っていました。また、地場産牛乳を使用したゼラートやお菓子などの販売ブースも用意されており、会場は大賑わいの様子でした。なお、来年1月にも富山市内の銭湯で牛乳イベントが開催される予定とのことです。

普段は何気なく飲んでいる牛乳ですが、牛たちや生産者の皆さんのおかげで安価に美味しく飲めることに改めて感謝したいと思います。

(西部家保環境課 宮本課長)

豚熱の防疫制度が変わります（選択的殺処分へ）

2026年5月19日に家畜伝染病予防法が一部改正され、それに伴い豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針も一部変更されました。国内で発生が続く豚熱について防疫制度の大幅な見直しが行われ、発生農場での対応は「全頭殺処分」から「選択的殺処分」へと移行しました。この見直しは、防疫効果を維持しながら農場経営への影響を軽減することを目的としています。



変更のイメージ

出典：農林水産省

■これまでの対応と課題

従来の全頭殺処分は、感染拡大防止に有効である一方、農場の再開までに長期間を要し、経営に与える影響が大きいことや、防疫措置に係る人的・精神的・財政的負担が課題としてありました。また、野生いのししを介した感染拡大が続く中では清浄化に向けた先行きが見通しにくく、経営への負担の軽減とまん延防止の徹底を両立できるような合理的な防疫方法が求められていました。

■選択的殺処分の内容

過去の発生事例での詳細な分析から、ワクチン接種済みで健康な豚は感染を広げるリスクが低いという科学的知見が得られています。そこで、選択的殺処分では、感染拡大リスクの高い豚のみを処分対象とします。具体的には、ワクチン未接種または接種後間もない豚、特定症状を呈し遺伝子検査で陽性と確認された豚、発育不良等免疫が弱いと考えられる豚などが対象です。一方で、ワクチン接種が適切に行われ、症状のない健康な豚は原則として処分対象外となります。

■発生時の対応ポイント

本制度では、豚を残すことが前提となるため、より厳格な防疫管理が必要です。具体的には、残存豚と防疫作業動線の交差汚染防止の徹底、豚舎や設備の徹底消毒を複数回実施することが求められます。また、防疫措置期間中に生まれた子豚は免疫が十分でないため、原則として殺処分対象となります。

■発生後の経営継続と現場の重要点

今回の見直しにより、健康な豚の出荷や子豚の移動が条件付きで認められ、農場の早期再開が期待されます。一方で、原則発生後約3か月間は健康観察を徹底するとともに、毎日、飼養豚の異状の有無や死亡頭数等について県への報告が必要となり、監視体制は強化されます。今後も、ワクチンの確実な接種と飼養衛生管理の徹底が最も重要であり、日常的な防疫対策の継続が不可欠です。

(西部家保防疫課 中村係長)

新飼養衛生ポータルへの操作講習会の開催について

家畜の所有者は、毎年、飼養家畜の頭羽数及び飼養に係る衛生状況に関し、県に報告する義務があります。これまで、農林水産省共通申請サービス（eMAFF）を利用して飼養衛生管理に係る報告（定期報告、家きんの自己点検等）をオンラインで報告できましたが、令和8年度中に、現行のシステムから「新飼養衛生ポータル」へ移行することになりました。

新システムによる報告は、令和8年10月の家きんの自己点検から開始予定となっていますので、システム変更に伴う操作講習会を下記のとおり開催いたします。講習会の受講を希望される場合は、**6月24日（水）**までに管轄家畜保健衛生所へご連絡をお願いします。

【操作講習会の日程（農林水産省主催）】

対象者	開催日	時間	場所
eMAFFの利用経験のない生産者	令和8年7月1日	午後1時30分 ～	(公社) 富山県畜産振興協会 (富山市手屋3-10-15)
既にeMAFFを利用している生産者	令和8年7月8日	午後4時30分	

(農業技術課畜産振興係 田知副係長)

梅雨時の飼養管理ポイント

気象庁のデータによると、北陸の梅雨入りは例年6月11日頃となっています。今回は梅雨の時期に気を付けたい飼養管理のポイントを紹介したいと思います。

1 飼料のカビ対策

カビ毒（マイコトキシン）に汚染された飼料を給与すると、飼料摂取量の減少、生産性低下（乳量・増体率低下）、繁殖障害（流産・受胎率低下）、免疫機能低下などを引き起こし、経営に甚大な経済的損失を与えます。以下の点に注意してカビの発生を防ぎましょう。

- ・ 飼料は計画的に適量を補充し、飼料タンクで長期間の保存を避ける
- ・ 飼料タンク内の結露対策として、タンクの遮光カバーや遮熱塗料を塗布する
- ・ 紙袋の飼料は冷暗所で保管する
- ・ 飼槽の残餌やエサ箱の汚れはこまめに掃除する

また、飼料の表面のカビ、変色、臭いに注意し、カビが発生してしまった飼料はできるだけ給与しないようにし、吸着剤を利用して腸管からのカビ毒の吸収を防ぐなど、カビ毒の被害を予防しましょう。

（西部家保環境課 宮本課長）

2 乳牛の乳房炎

梅雨時期の乳牛の乳房炎対策には、「乾燥」と「衛生管理の徹底」が大事です。高温多湿な梅雨は、環境性乳房炎の原因となる大腸菌やブドウ球菌などの細菌、カビが増殖しやすい季節です。以下のポイントを参考に乳房炎対策を実施してください。また、家畜保健衛生所では乳房炎検査も実施していますので、いつでもご相談ください。

①牛床の乾燥と敷料や飼料の管理

- ・ **清潔な牛床**：糞尿で水分の多いままの牛床は細菌の温床となるため、清掃の回数を増やし、定期的に敷料を新しい乾燥したものに交換しましょう。
- ・ **送風機の常時稼働**：涼しい日であっても、換気と牛床・牛体の乾燥のために送風機を回し、空気が滞留するのを防ぎましょう。
- ・ **飼料のカビ防止**：カビに汚染された飼料は免疫力を低下させ、乳房炎のリスクを高めます。上述のカビ対策を参考にカビの発生を予防しましょう。

②搾乳衛生の徹底

- ・ ミストや雨、泥等で牛体や乳房が濡れたまま搾乳すると、開いた乳頭口に汚水が入り込み、乳房炎菌の侵入を許すことにつながります。タオル等で水分をしっかりと拭き取るようにしましょう。搾乳後も餌を食べる時間を設けることで、乳頭口が閉じる前に汚れた牛床に触れるのを防げます。
- ・ 環境を汚染しないよう注意して前搾りやPLテストを行い、乳汁の異常の早期発見に努めましょう。
- ・ 搾乳終了後は、乳頭口が閉じないうちに素早くディッピングを行います。薬液は適正濃度を保ち、こまめに交換しましょう。
- ・ 大腸菌等による乳房炎の症状を軽減してくれるワクチンもありますので、適宜検討してください。

（西部家保防疫課 増永係長）

3 鶏の寄生虫 ～夏に向けてロイコチトゾーンに注意～

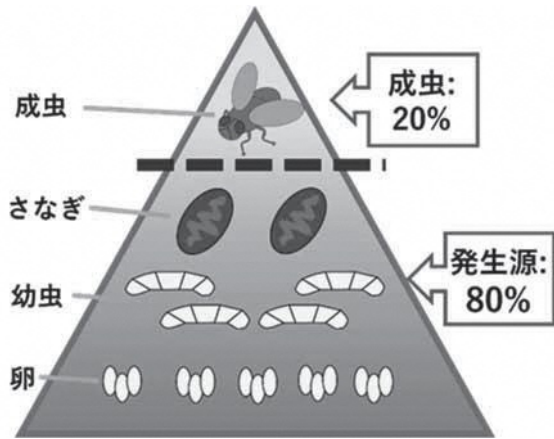
この時期、夏に向けて気をつけたい鶏の寄生虫病にロイコチトゾーン症があります。この病気は体長わずか1.3～1.5mmのニワトリヌカカが媒介する原虫病です。ロイコチトゾーンが寄生したニワトリヌカカに鶏が吸血されると感染し、血流に乗って各臓器や血球でロイコチトゾーンが増殖します。感染鶏は緑色便、貧血、産卵低下、軟卵の症状を呈し、重症例では死亡します。周囲に水田・側溝・湿地があるとニワトリヌカカが多くなり、リスクが高まります。西部家保管内でも過去5年間に6件、8月から10月に開放鶏舎で発生しました。採卵鶏は薬剤使用に制限があるため、防虫網や鶏舎壁面への殺虫剤散布、誘虫灯や捕虫器、鶏舎周辺の除草、側溝清掃、水たまりの除去、通風の確保などニワトリヌカカを減らす対策が基本となります。貧血の鶏の血液や死亡鶏の臓器を調べることで診断ができますので、鶏に緑色便や貧血、産卵低下がみられましたら家畜保健衛生所にご相談ください。



夏前までにサシバエ対策をお願いします！

6月に入り次第に気温が上がって夏の訪れを感じる日も多くなり、農場でハエを目にする機会が増えたのではないのでしょうか。

農場におけるハエは単なる不快な存在だけでなく、増体や生産性の低下、疾病伝播リスクの増加および畜産公害につながるなど畜産経営に大きな悪影響を及ぼします。ハエの中でも特に“サシバエ”は針状の口器を使って吸血するため、牛伝染性リンパ腫やランピースキン病の主な媒介者とされており、サシバエ対策が重要です。



図：ハエのライフサイクル構成比

ハエは一般的に目に見えている成虫の約4倍の卵や蛹、幼虫が存在するといわれています（左図）。1回あたり約50～100個、一生で500個程度産卵するため、大量のハエの成虫が増えてしまっただけでは対策が追いつかなくなってしまいます。幼虫段階で殺虫し効果的にハエのコントロールをしましょう。

サシバエは湿った場所を好むため、畜舎の糞をこまめに取り除き、糞をよく発酵させましょう。堆肥表層にも産卵することから、切り返しをして堆肥全体に発酵熱を伝えることが卵や幼虫の駆除に効果的です。餌や糞、古い敷料等がたまりやすい畜舎壁の隅、畜舎内の溝、ウォーターカップ下、通路のゴムマットの下やその隙間等をよく清掃し、堆肥にIGR剤（昆虫成長阻害剤）を散布することが推奨されます。

さらに、敷料は継ぎ足しで使用するのではなく全量交換するようにしましょう。

成虫対策としては、薬剤含浸防虫ネット及びハエ取り紙の畜舎への設置、畜舎内の送風、牛体へのイヤータグ型の殺虫蒸散剤の使用、サシバエの休息場所となる畜舎周辺の草刈り等が有効です。成虫が多く発生している場合には、約5日間隔でETB乳剤の牛体への噴霧や、畜舎外壁及び畜舎周辺の草地に殺虫剤の残留噴霧をすることが有効です。ただし、同一系統の薬剤を連続して使用するとサシバエが薬剤抵抗性を獲得しやすくなることから、作用機序の異なる薬剤（下表）をローテーション的に使用しましょう。

もし、サシバエ対策についてお困りごと等あれば、管轄の家畜保健衛生所までご相談ください。

対象	使用法	薬剤の種類	特徴
幼虫	直接散布	IGR製剤：脱皮阻害剤（シロマジン、ネポレックス、ラーバデックス等）	薬剤を経口摂取すると表皮が硬くなり、脱皮時に幼虫が動くと表皮が破裂して死亡。採食行動が盛んな1～3齢幼虫の前期までに薬剤を散布する。卵を見つけた直後から2週間隔で散布すると効果的。
		IGR製剤：幼若ホルモン様物質（金鳥PPK、ラモスSG、サイクラテ SG等）	幼若ホルモンにさらして蛹化・羽化を阻害し死亡。薬剤に触れるだけで効果があるので、あまり摂食しない3齢中後期の蛆や卵、蛹にも効く。
幼虫 ／ 成虫	直接散布	ピレスロイド系（ペルメトリン乳剤、ETB乳剤等）	人や家畜に毒性が低いため広く使用されている。即効性はあるが、残効性はないので頻回の散布が必要。
		有機リン系（ネグホン、スミチオン、トヨダン等）	即効性で効果が高いが人や家畜に毒性がある。耐性ができやすい。
成虫	残留噴霧	カーバメイト系（ボルホ、サンマコー等）	残留効果が期待できる薬剤をハエが止まる壁や柱等にあらかじめ塗布。

※サシバエは家畜の血液を吸うため、毒餌（ノックベイト、アジタ等）では誘引できないので注意

（西部家保環境課 小林主任）

特定事業場に関する届出状況、把握していますか？

特定事業場（特定施設を有する事業場）に該当する畜産業者は、公共用水域（河川、沿岸海域等）へ排水する場合、水質汚濁防止法に基づく排水基準値をクリアする必要があります。特定事業場は、①総面積50㎡以上の豚房、②総面積200㎡以上の牛房、③総面積500㎡以上の馬房のいずれかを有する場合が該当します。

特定事業場に該当する場合は県（富山市以外で畜産業を営む場合）または富山市（富山市で畜産業を営む場合）へ「特定施設に関する届出」が必要です。畜産業で注意が必要な水質項目として、以下の項目が挙げられます。

- ・健康項目（全ての特定事業場）
アンモニア、アンモニウム化合物、硝酸性窒素など
- ・生活環境項目（日平均排水量が50㎡以上の特定事業場が対象）
生物化学的酸素要求量（BOD）、浮遊物質（SS）、大腸菌数、窒素・りん含有量など

現在、農林水産省が実施する全ての補助事業等に対しては、チェックシート方式により、最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を要件化する取組（通称「みどりチェック」）が試行実施されています。令和9年度からこの取組が本格実施され、取組の実践およびチェックシートの提出が補助金の受給要件となり、国による取組内容の確認も行われる予定です。

みどりチェックの「取組の実践」の項目の中には、特定事業場に該当する場合、排水処理に係る水質汚濁防止法の遵守について取り組むことも記載されています。取組内容には①特定事業場の届出内容に変更があった場合の手続きの実施、②年に1回以上の排水水の測定と結果の記録、その3年間の保存等が挙げられます。

補助事業の適切な活用のためにも、まずは自分の農場が特定事業場に該当するのか、該当する場合は既にも上記届出がされているかを確認してください。また、届出がされている畜産農家の皆様につきましては、届出内容の変更の有無の確認や、排水水の測定・記録の適切な保管をお願いいたします。届出の提出等については、県環境保全課のホームページ（右のQRコード）からご確認ください。



（農業技術課畜産振興係 石原主任）

燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口（農林水産省）のお知らせ

今般の中東情勢の緊迫化を踏まえ、農林水産省では、燃料供給に関する相談窓口を設置しています。中東情勢の影響により、燃料油や石油製品等の確保に不安がある場合は、お早めにご相談ください。

生産・加工・流通現場における燃油確保等のご相談はこちら

○農林水産省

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| [畜産経営関係] 畜産局企画課 | chikusan_soudan@maff.go.jp |
| [牛乳乳製品関係] 畜産局牛乳乳製品課 | gyunyu_sokatsu@maff.go.jp |
| [食肉・鶏卵関係] 畜産局食肉鶏卵課 | shokuniku_soumuML@maff.go.jp |
| [飼料関係] 畜産局飼料課 | feed-support@maff.go.jp |



農水省プレスリリース

○北陸農政局

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| [畜産業] 生産部 畜産課 | tikusan_hokuriku@maff.go.jp |
| [農業] 生産部 環境・技術課 | seigikan_hokuriku@maff.go.jp |
| [食品産業] 経営事業・支援部 食品企業課 | nenyusoudan_hokuriku@maff.go.jp |
| [その他] 北陸農政局 企画調整室 | hokuriku.kikakutyousei@maff.go.jp |

（西部家保環境課 宮本課長）

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

豚熱（法定伝染病）

（5月31日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
104	5月5日	静岡県富士宮市	一貫	約2,930頭	

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛大腸菌症	牛	5月1日	1	1	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	5月14日	1	1	
鶏コクシジウム症	鶏	5月1日	1	3	
山羊の大腸菌症	山羊	4月9日	1	2	

令和7年（2025年）シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（令和8年5月1日～5月25日）

事例	回収日	場所	種名	備考
166	4月26日	北海道札幌市	ハシブトガラス	野鳥監視重点区域6/19まで
167	5月22日	北海道札幌市	ハシブトガラス	野鳥監視重点区域6/19まで

令和8年度畜産経営技術推進指導協議会総会・家畜保健衛生対策会議を開催

東部および西部地域畜産経営技術推進指導協議会は令和8年度の総会を5月21日、27日にそれぞれ開催し、全ての議案が承認されました。今年度も畜産優良施設等視察研修会、畜産女性研修会、および技術検討会を開催する予定にしています。

また、総会后、市町、畜産関係団体等が出席し、家畜保健衛生対策会議を開催しました。本会議では、家畜保健衛生所より今年度の重点業務、高病原性鳥インフルエンザや豚熱の防疫対策、アフリカ豚熱の発生状況、および環境保全の推進について説明し、今年度の協力体制を確認しました。

（西部家保指導課 本多次長）

7月から死亡牛処理に係る手数料が変更になります

本誌683号（4月号）でもお知らせしたとおり、7月1日から死亡牛BSE検査手数料（検査済死亡牛を家保で処理する場合）と病性鑑定家畜処理手数料が以下のとおり変更になります。申請の際はご注意ください。

項目	令和8年7月1日～	改正前
死亡牛BSE検査手数料 検査済死亡牛を家保で処理する場合	55,700円	51,000円
病性鑑定家畜処理手数料	37,700円	32,900円

（西部家保環境課 宮本課長）

☆ お 知 ら せ ☆

催事等	期日	場所
北陸三県和牛子牛市場	6月25日	北陸三県家畜市場（金沢市）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編集者 宮本 剛志（富山県西部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

